



防災は、「自助」(自分の命は自分で守る)「共助」(地域や近所の方が互いに協力し合う)「公助」(国や都道府県、市町村、防災関係機関等による防災、減災活動)が基本だと言われています。それら三助に加えて「近助」という言葉があるようですが、ご存じでしょうか?防災アドバイザーの山村武彦さんは自助と共助の間に「近助」の精神が大切であると提唱しています。プライバシーに深入りせず、ほどよい距離感で、隣人にも関心をもち、困っているな、変だなと思ったら、近くにいる人がためらわずに声をかけ、助ける人になる、傍観者にならない心、それが「近助」だとおっしゃっています。いざという時は援助の手が必要な人に声をかけて共に助け合うといったコミュニケーションがとれるよう「近助」の精神を心掛けたいものですね。

防災だよりでは、防災、その他危機管理に関する学校の取組や出来事、児童生徒の学習の様子、情報等をお知らせします。後日、学校HPにも掲載しますのでそちらもご覧ください。

○ 防災に関する職員研修 (夏休み)

南海トラフ巨大地震について、その被害想定や減災対策について知り、本校の地震発生時のマニュアルを確認しました。また、教室に落下の危険性があるものがないか、ふれあい広場以外に避難場所として安全な場所はないかなど、職員間で意見を出し合い、話し合いを行いました。



○ 緊急時対応訓練 (夏休み)

緊急時の対応について「アクションカード」を使用し、訓練を行いました。緊急時でもやることを「見える化」することによりそれぞれの役割が明確になり、より素早く対応することができるようになりました。



アクションカードって何?



緊急対応訓練を通して、アクションカードの導入を検討してきました。その結果、アクションカードの有効性と必要性が高いと判断し、各教室にアクションカードを設置することになりました。アクションカード(手のひらサイズ)には、緊急時に必要な項目が書かれており、駆けつけた職員にカードを配布します。カードをもらった職員は書かれている項目について役割を果たすことになります。緊急時、指示をもれなく伝えることができ、指示を受けた職員も、カードに指示の内容や放送する文言が書かれているので、指示が明確に伝わるというメリットがあります。

今後、さらにカードの内容の変更や個別に必要なカードの追加などを検討していきたいと考えています。



カードをリングで綴じ、各教室に設置。カードを引っ張ればすぐに取り外せる。

<p>①校内放送 一斉放送を行う! 校内放送(内線:5番)</p> <p>「○学部 △△さんが緊急事態です。至急□□(場所)まで来てください。」 ★2回繰り返す。</p>	<p>②教室内・近くにいる児童生徒の移動</p> <p>□ 教室内または近くにいる生徒を他の教室や場所に移動させる。 □ 児童生徒を預けて戻ることができれば戻る。</p>	<p>③記録 ※記録用紙...教室入口に緊急マニュアルと一緒に設置</p> <p>□ 状況・処置の経過・時間記録をする □ 搬送時、学部主事か担任へ渡す</p> <p>※この記録を元に 発見者又は看護教諭がセンター職員または救急隊へ状況を伝える。(記録者は補助する)</p>	<p>④ストレッチャー準備</p> <p>□ バスタオルを敷く □ ストレッチャーの下にあるものを使用 □ ストレッチャーの準備ができたらキーパーソンに報告</p> <p>□ 2階中学部東廊下(3A・3C・4F) □ 3階小学部東廊下(2F・3F) □ 4階小学部東廊下(2a・2c) □ 高等部玄関裏</p>
<p>⑤AEDの手配と操作</p> <p>□ AEDを取りに行く □ 現場に到着したら看護教諭に確認 □ パッドを装着し操作を行う □ キーパーソンに報告、カード返却</p> <p>AED設置箇所 ○正面玄関 ○高等部玄関 ○体育館入口</p>	<p>⑥ハリーコール ハリーコールを行う! センター館内放送(内線:4151番) ※エレベーター(1階)の横</p> <p>「ハリーコール、ハリーコール」 ○学部 △△さんを1病棟へ緊急搬送します。 ★大きな声でゆっくりと2回繰り返す □ ハリーコールをしたことを周囲に伝える</p>	<p>⑦保護者連絡(担任)</p> <p>□ 状況説明 □ センター搬送報告 □ 救急車搬送確認、報告 □ キーパーソンに報告</p> <p>【緊急連絡先】 連絡先(): - 連絡先(): -</p>	<p>アクションカード</p>



避難訓練



○ 地震想定避難訓練（11月）

震度6弱の地震が発生したという想定で避難訓練を行いました。これまで、一次避難場所としていたふれあい広場ですが、今回はふれあい広場までの道に通行が不可能な場所があり、そこまで行くことができない状況をつくりました。全員が同じ場所に避難できなかった場合を想定して、安全が確保できそうな教室近くの中庭や運動場への分散避難を行い、本部への連絡方法についても考えました。全員が同じ場所に避難できないことは十分に考えられることであり、各避難場所からの連絡方法も、トランシーバーを使う、職員が走って本部に伝達に行く、LINE なら繋がるかも等々反省でも様々な意見が出ました。全員の無事が確認できたところで、医療的ケアを受ける生徒の一部はこども療育センターへ移動し、実際にケアを受ける場所について確認を行いました。



○ 火災想定避難訓練（1月）



調理室から火災が発生したという想定で避難訓練を行いました。はじめにスライドで事前学習を行い、訓練に臨みました。火災報知器の大きな音にびっくりする児童生徒もいましたが、放送をしっかりと聞き、落ち着いて避難することができていました。全員が避難を完了するまでなんと3分!とても素早い避難でした。その後は、水消火器体験をしたり、校内にある消火器の場所を確認したりして、火災発生時の対応について学びを深めました。



○ みやざきシェイクアウト訓練

「安全確認行動」写真・動画コンテスト

上記のコンテストに応募した高等部の藏本優希さん、高野優菜さん、田中登真さん、中村奏晴さんのグループ作品が見事当選!賞品として「ポータブル電源」と「5年保存水」が届きました。おめでとうございます!

